

魔法少女

シャイム

第三章 『陽ノ下ユウ』

みる しほい
脳の浸食で



みんな
魔法少女は雌奴隷に...

なかよし
雌奴隷



白黒漫画 本編 74P

～第一章のあらすじ～

正義のヒロイン『シャインハーツ』は闇の魔物『ダーゲル』を倒した



しかしダーゲルはメンバーの一人『エリナ』に寄生して脳を侵食し



俺は待っていた！
少しずつ細胞と
闇の力を回復
させながら……



エリナは洗脳され凌辱される



はあああつあ
あああつあ
!!



ペ…ペンとか…
あと…机で…

こ…
こ…
グキョグキョ…
押し付けて…

ま…毎日…
して…
ます…

は…オナ…
…

グキョ

グキョ

——シャインハーツの
最後の戦いが始まる……



まさか
あなた達も
シャインハーツ
だったなんて
……

これから
よろしく
頼むわ
アサヒさん
ユウさん

こちらこそ
よろしくね
エリナさん
ユウさん

二人共
『さん』付け
禁止!!

よそよそ
しいの
ダメ!

もし次
ユウさん
言ったら
くすぐり
地獄の
刑だよ!



え?



そうだね

よろしく
エリナ
ユウ

よろしく
ね

アサヒ
ユウ

えへへっ
よろしく
っ!

エリナ!
アサヒ!

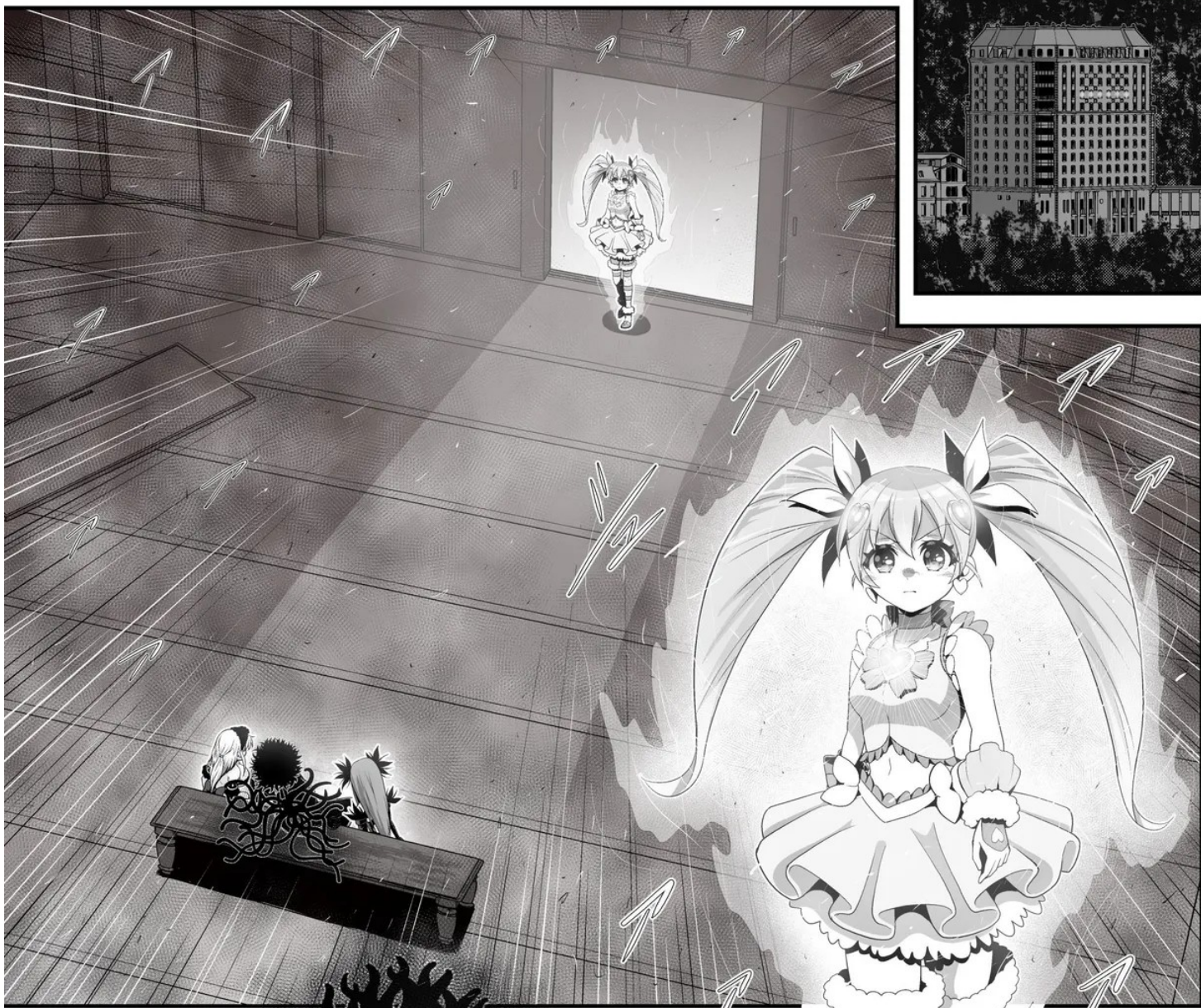
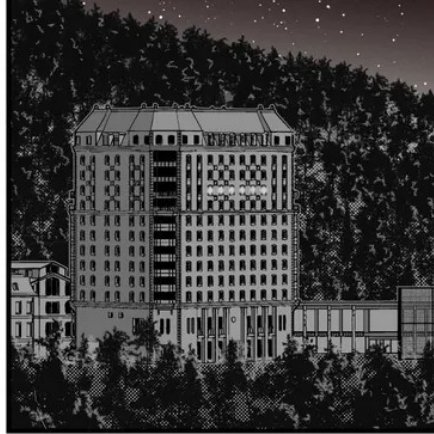


== == == == 第三章 == == == ==

{陽ノ下ユウ}

仲良く
しよ!









な…何故
ここまで…!?

こ…
これまでを
遥かに上回る
光の力…!



力が湧いて
きて…

ダーゲルの強い
闇の力を感じたら



分から
ない



うぐあ
っ…!

ただ…



この世界
を…!!

闇に

ごめん
ね…



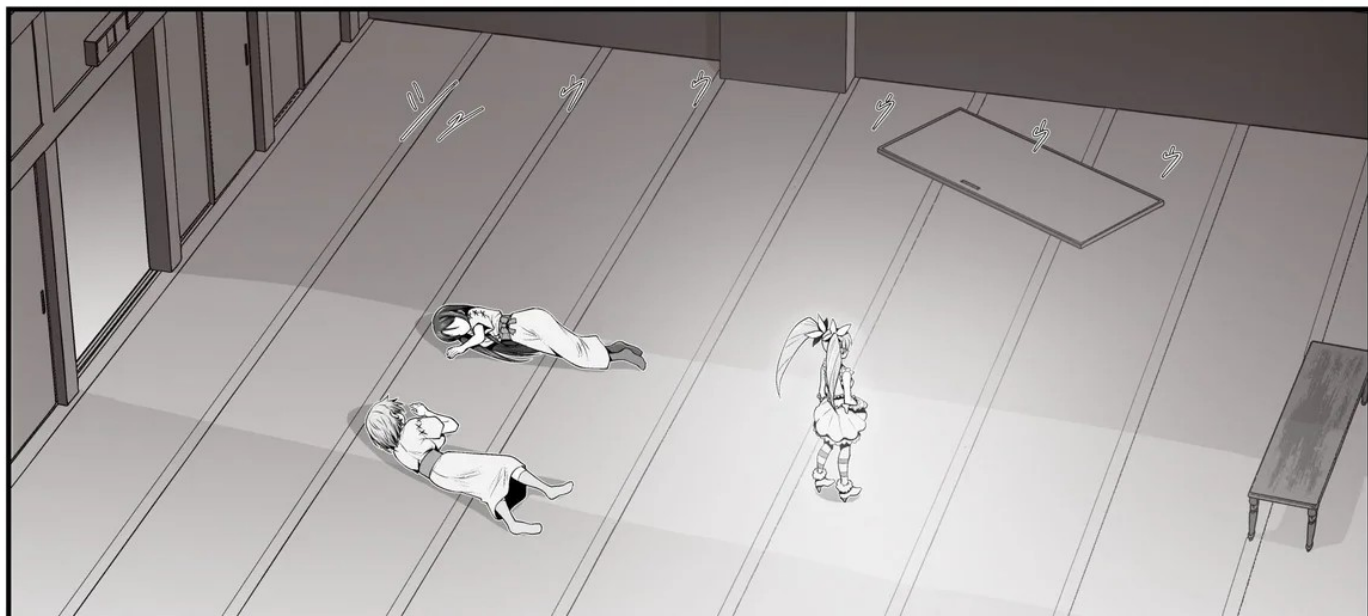
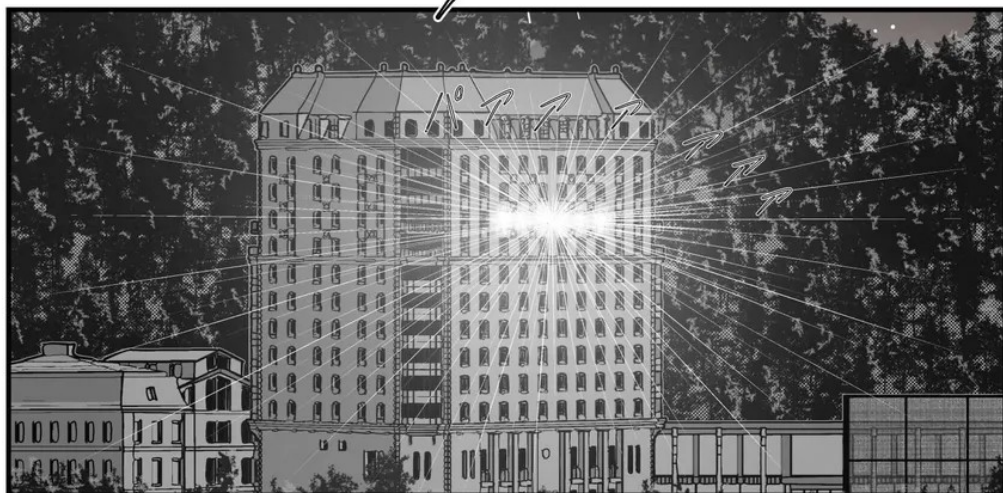
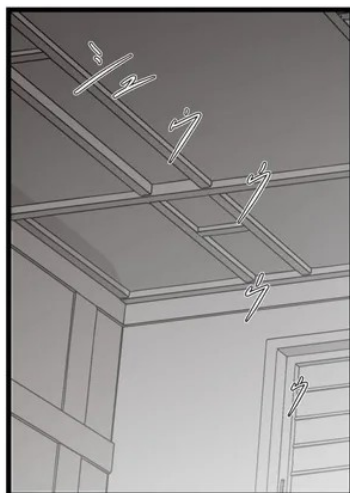
く…
くそお
っ…!

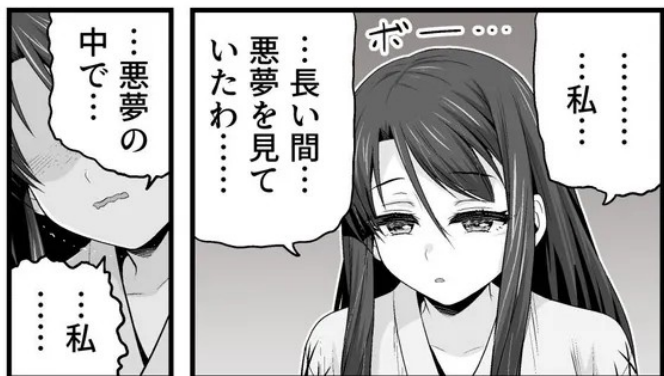
お…俺は
必ず…
お前達を



—っ!
そういえば
あの時
アサヒも…

俺の闇の力に
呼応し
力が覚醒した
とでも
言うのか…!
ふふざける
な…!

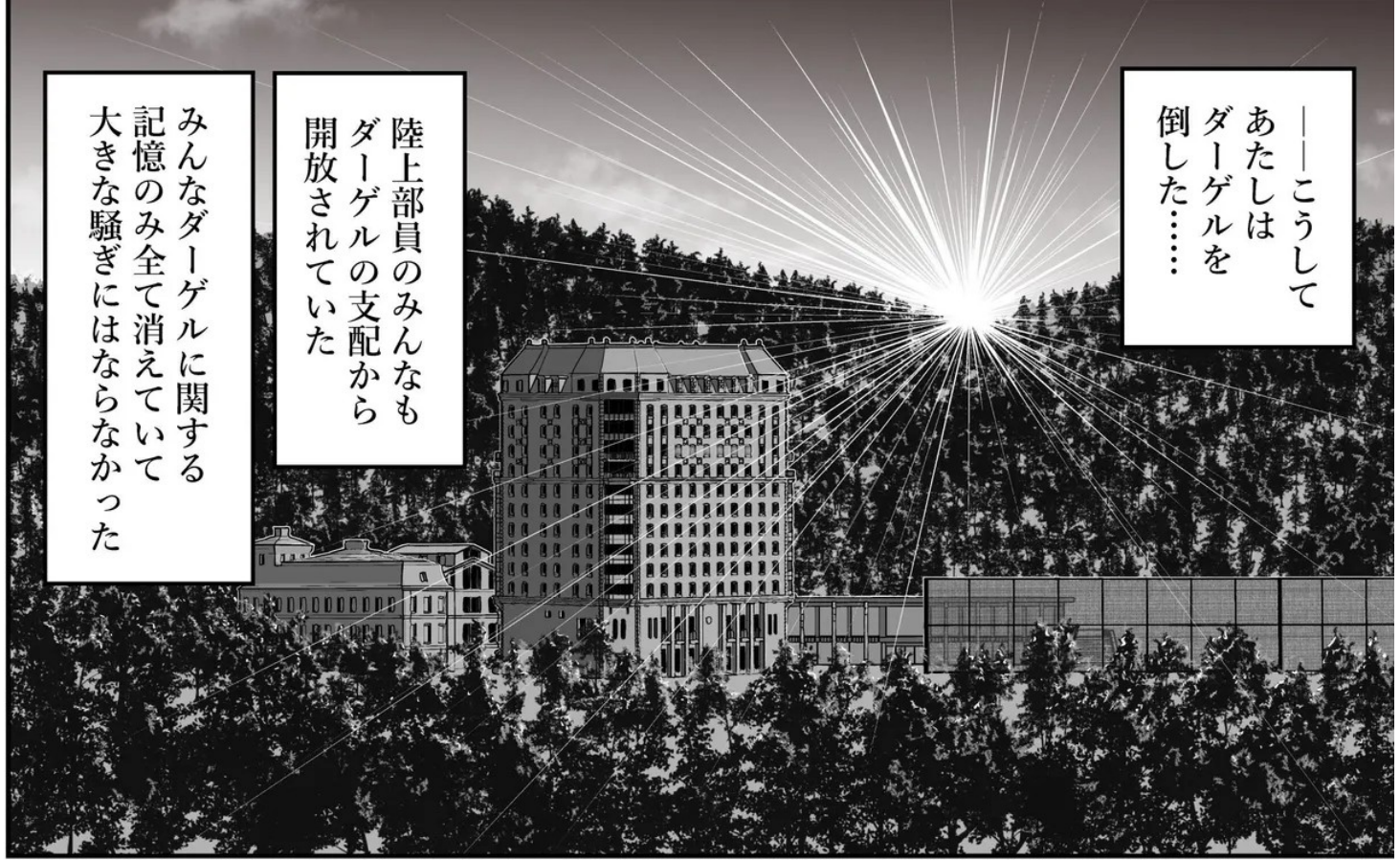




——こうして
あたしは
ダーゲルを
倒した……

陸上部員のみんなも
ダーゲルの支配から
開放されていた

みんなダーゲルに関する
記憶のみ全て消えていて
大きな騒ぎにはならなかった



——1週間後



平和だねえ

んっ



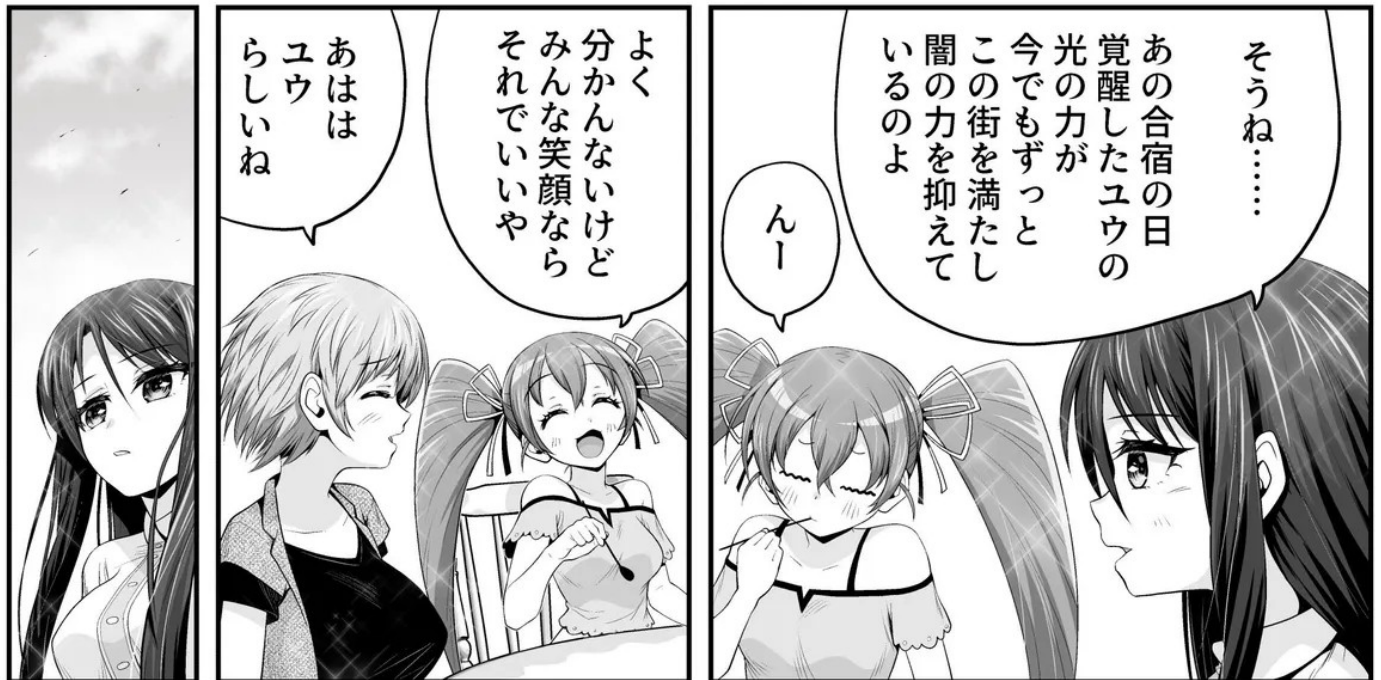


ええ 闇の魔物は
一度も出てないし
僅かな闇の気配さえ
感じられない……

こんな事は
初めてね

きっとユウの
光の力のおかげ
なんじゃない
かな？

ほえ？
あたし？



そうね……

あの合宿の日
覚醒したユウの
光の力が
今でもずっと
この街を満たし
闇の力を抑えて
いるのよ

んー

よく
分かんないけど
みんな笑顔なら
それでいいや

あはは
ユウ
らしいね



……闇の魔物は……
どうして生まれたの
かしら……

え？

いえ……

まだ私達の
知らない事が
あるのでは
ないかと思って
しまつて……

……

……って
ごめんなさい
変な話して

次はどこ
行く？



——難しい事は
分からないけど

あたしは
今のこの街が
大好き



みんな笑顔で
キラキラしてて

アサヒやエリナや
大切な人達とずっと
仲良しでいられたら

あたしは
それでいいんだ



——1ヶ月後



一体
何が……

た……

ノ下……



地面の奥深くで
何かが蠢いて
る……

——ああ……
またこの夢
だ……

陽ノ下ユウ!

ほへ?

よく眠れたかー?



聞いて先生!
夢の中で
地面の奥が...

知るかつ!
お前が授業を
聞けっ!



あれ以来
闇の気配は
感じない

みんな
キラキラ
してる

夢の事は
少し気になる
けど.....

アサヒの胸
だいぶ元に
戻ったね



うん
ダーゲルの支配が
なくなった影響
だろうけど
もうサラシは必要
なくなつたよ

これで
今まで通りに
生活できるね
良かった良かった



.....
うん...



.....





この原因不明の熱病……

心配ね



リサの学校もそんなに休んでるの？

うん半分近く休んでる

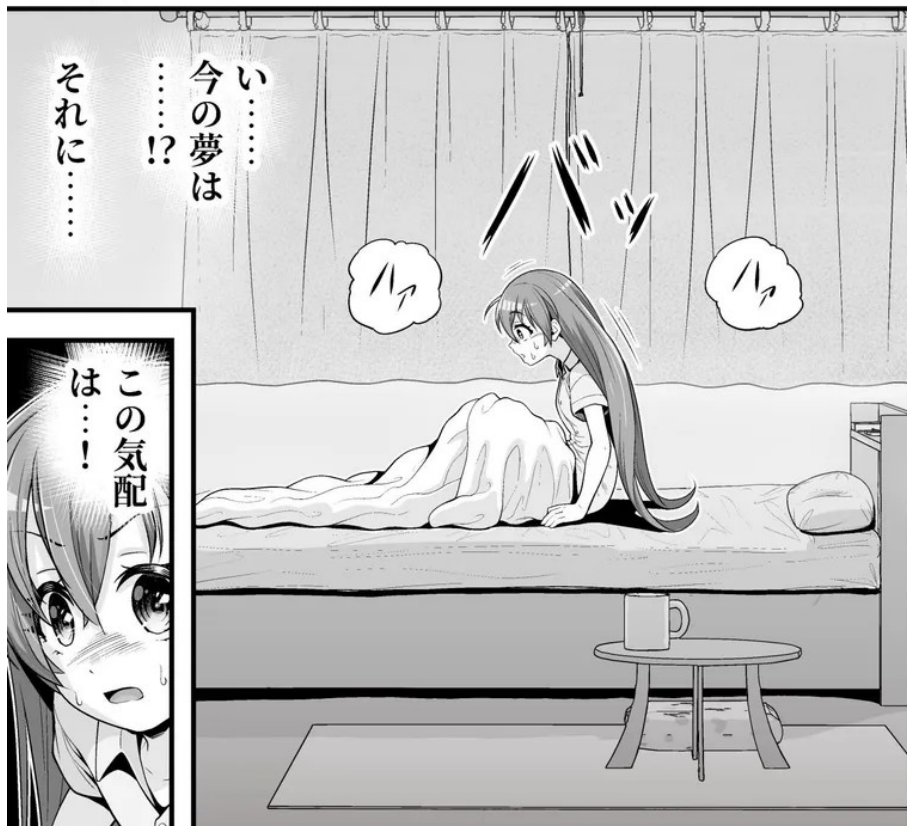
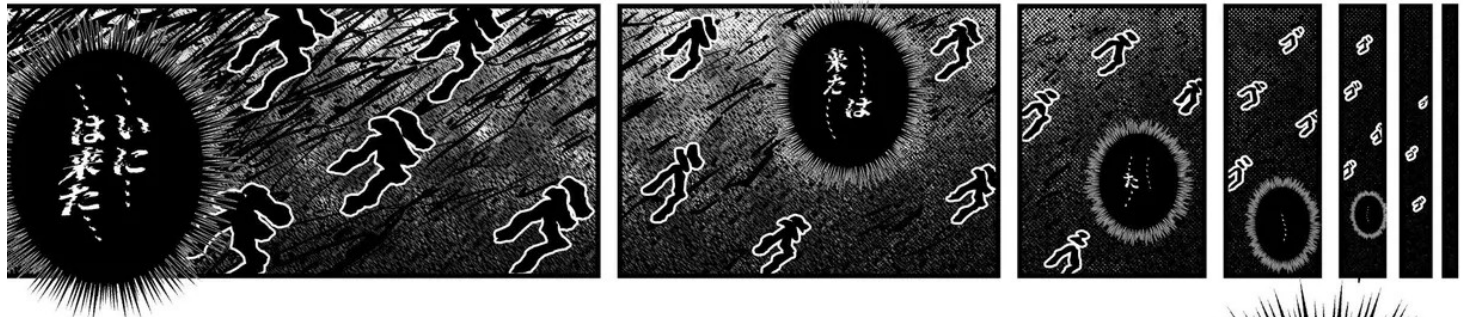
私も少し熱っぽいし



その後街中を見て回ったけど闇の魔物はいなかった

街は相変わらずキラキラしてるけど今ではそれが逆に不気味に感じる……

そして何も分らないまま数日が過ぎて……



い……今の夢は……!!
それに……

この気配は……!





寝坊した!?
あれ!!
って
あれ!!

マママがいつもは
起こして
くれるに!!

あたし達の
学校……!!

力の中心
は……

……今まで
感じた事のない
大きな闇の力……!

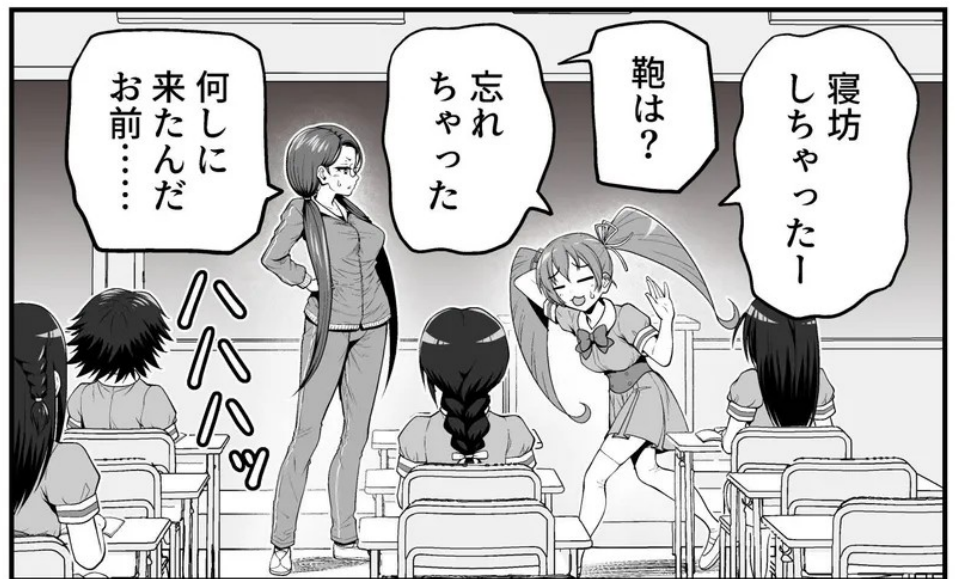
あ……
あれは
……!!



ママ
……?

とにかく
早く学校に
行かない
と……!!

出かけ
た……?





「ご主人様に
脳を侵食して
もらい」

「クチュクチュ
弄っていただき
ました♥」

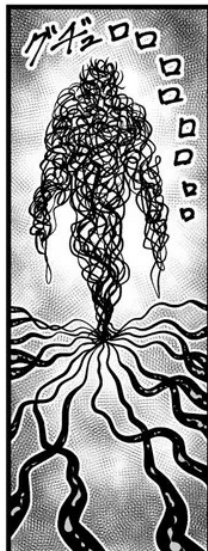


「教えていただき
ました♥」



「洗脳される
悦びと♥」

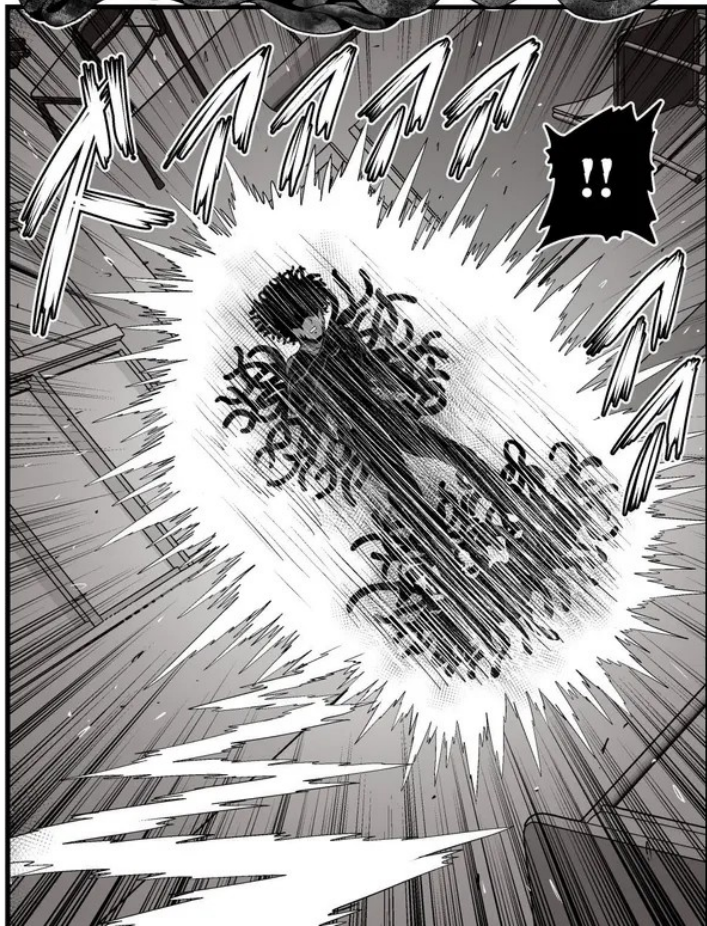
「雌奴隷の
幸せを♥」



「この気配
は……!」

「そ……
そんな
……」







これ程強大な
力を得られた
のも全て……



……え？

お前の
おかげだ

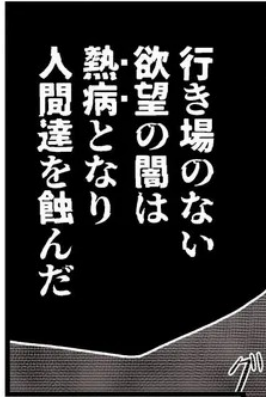


くっ!!

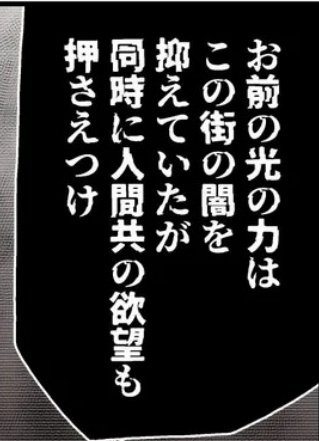
……俺が
甦れた
のも……



抑制された街の闇は
日に日に蓄積され続け
今朝限界を超え爆発した
街は闇に覆われ
俺は街の闇と共に
蘇ったのだ



行き場の無い
欲望の闇は
熱病となり
人間達を蝕んだ



お前の光の力は
この街の闇を
抑えていたが
同時に人間共の欲望も
押さえつけ



——お前に
倒された後
俺は世界の
闇の中を漂い
この街の闇と
同化した



そうだ
お前の
光の力は
街の人間
と……



……あ……
あたしの
せいで……

ダーゲルが
復活して……

みんなが……
熱病に……



アサヒ!
エリナ!



仲間達を
苦しめた

そして今朝
俺と戦い
すぐに敗北
したのだ

俺の闇で
淫らな肉体に
なっていた
この二人は
欲望を抑えられ
長い間苦しんで
いた



んあう

おあう



やい...

ダメ...
二人共...



ユウの
服を
剥ぎ取れ

アサヒと
エリナよ



...うう...
僕は...

私...
わ...

よ
良かった...
元に戻って...



ダメええ
ええっ!!!



きゃあ
っ!!



……服を
剥ぎ取ら
ないと……

ダーゲル
様の……
命令……

も……
戻って
ない……!!



そんな光では
体内奥深くの
触手は消せぬ



それより
ユウ……

お前は今
光の力を
放出した



ああ……
ついに……

ユウも……



今お前の
脳内は
無防備だ!

侵食
されるが
いい!

あがつ

あがつ



……うぐ
っ……

……ううっ
ううっ
……!



ああああああ
ああっつっ!!!



……まさか瞬時に
光の力を回復させ
脳内の触手を
消滅させるとは……

だが……



これでもう
抵抗は
できまい

ううっ

ググ……

ボクッルル……



脳以外なら
ある程度侵食
できた……!!

て 手足が痺れて
力が入らない……!!

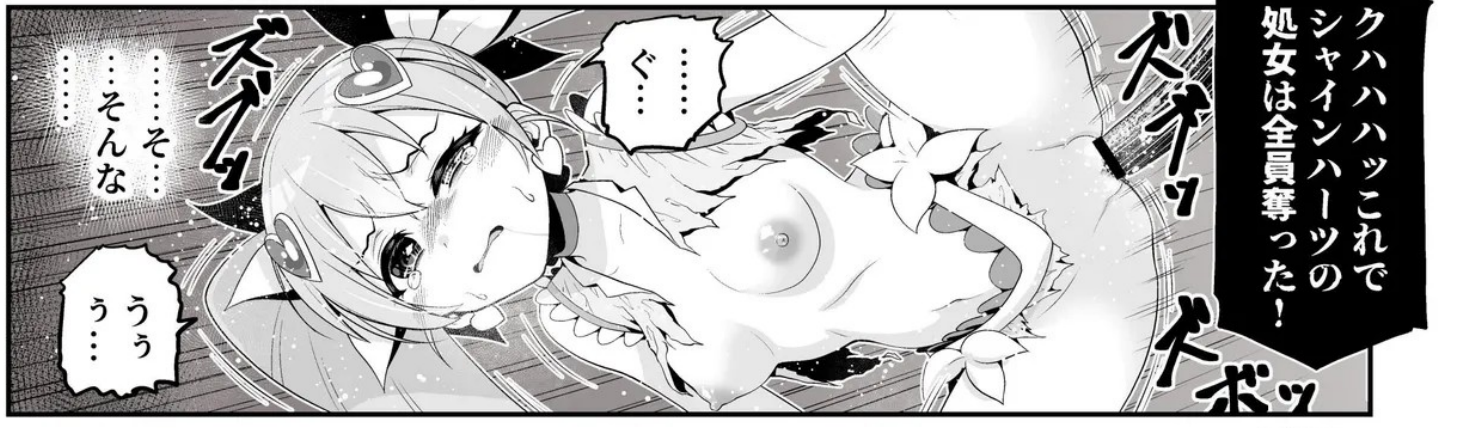


い……

……いや



ぐあああああ
あああつっつ!!!



クハハハッこれで
シヤインハーツの
処女は全員奪った!



え...



ククッ随分と
苦痛を感じて
いるな...

んぐあ
っ...!
いつ痛いっ!
やめてえっ...!

くああ
っ...!
グッ

だが



あっ...
あれっ...?

きゅっ...急に
身体が熱くっ...!



ククツ
快楽に
悶えるが
いい……!

そっ
そんなっ
……!!

んあっ!

はあ
っ!

ボッ



ボッ

ああっ……!
あたしっ……
もうっ……!

ボッ

絶頂して
しまえ
ユウっ!



ふあああ
あっ……!

快楽しか
感じない
だろうか?

ボッ

ああっ!

ボッ

内側から
お前の神経を
弄ったのだ

んはあ
っ!

ボッ



あああああ
はあああっ!!

ボッ



……あ
あ……あ
あ……あ
は……
必ず……
世界を
守って……



この先
お前の全てを
闇に染めて
やる……

クククツ
……

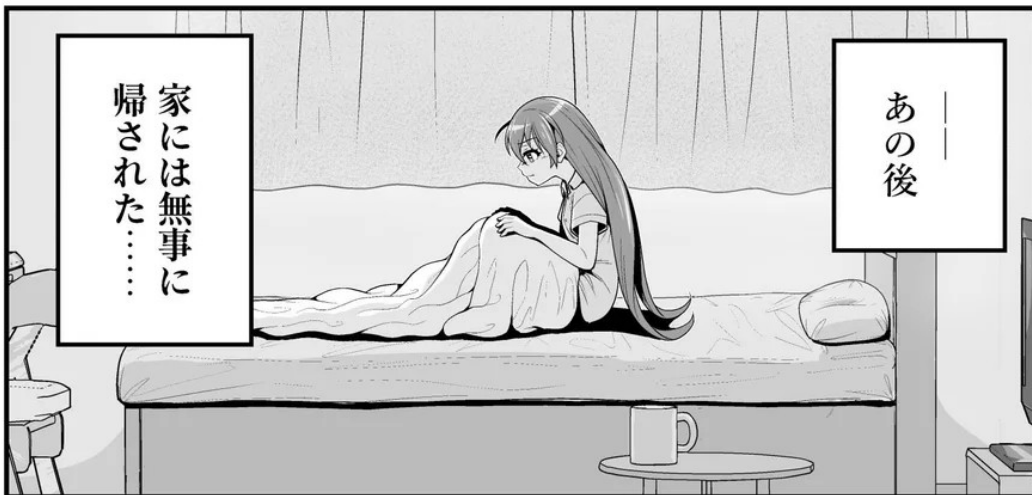
う……
う……



平和な世界
で……

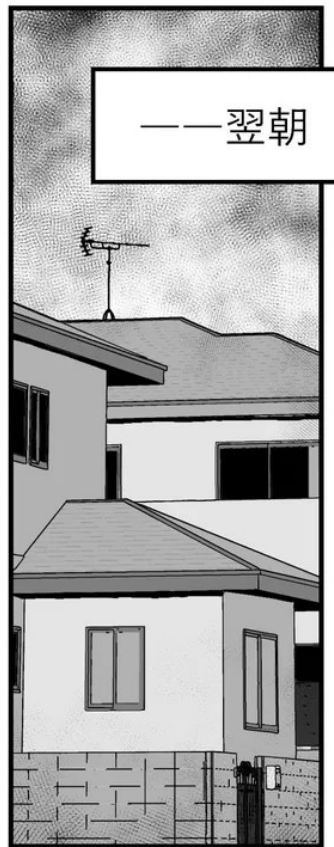
オオオオ

みんなと
仲良く
暮らすん
だ……！



あ
の
後

家には無事に
帰された……



——翌朝



でも……

この街の
人間達は
俺の闇の
支配下にあり
いつでも
殺せる

もし
逃げたら
どうなるか
分かるな？
クク……

今はダーゲルに従うしかない…

でも きつとみんなを助けるチャンスは やってくる…!

な…

おん

んおん



おはよう
ございます
ダーゲル様♡

今日はどの
雌奴隷の穴を
味わいますか♡

んおお
おおっ♡

私達は
あっ♡

おん

んおん



ダーゲル
様のっ♡

性処理用
便器です
うっ♡

まだ若い
中●生の
身体をっ♡

触手チ○ポ
様でっ♡

犯してっ♡
汚してっ♡

孕ませてくだ
さいいっ♡

中出し
してっ♡

やめて
ダーゲル!

これ以上
みんな
には…!

ククッ

だった
ら…

2-3



こっ……こんな事……
 ダーゲルの命令で……
 本当はしたくないのに……!

んま
ジュボ

あぁっ……
 でもっ触手がっ
 何度も中をっ
 ジュボジュボっ
 出入りしてっ

はぁ

ジュボ

あぁ

あぁっ……
 あたしっ……
 あたしっ……
 もうっ……

ジュボ



あああああ
 あっつっ!!

ジュボ

……あ……
 あたし……

これから
 毎日……
 こんな事
 を……?

あぁ

はぁ



なんで……
 こんな
 気持ち
 悪い物を……

ドロオオ



ううっ
 ……

クク……
 ミルク入り
 のな

食べなければ
 どうなるか
 分かってるな?

ドロオオ
 オオ

ドロオオ

お前の好きな
 アイスだ



美味……しい……

……お……



俺の触手チ○ポや
精液や体液などが
一番美味しく
感じるようにな

あぁっ
そっ
そんな……!!

ダメなのにつっ!
食べるのが
やめられないっ……!!

ホウ……

シッ
ルッ

く……口の中が
ニチャニチャして……
苦くて……生臭くて……
それが……
とても
美味しい……!
ずっと味って
いたい……!!

クァ

パク

クク……触手の
侵食により
お前の舌を
改造した

クァ

シッ

美味しいっ!
気持ちいいっ!
あぁっ
精液凄いいっ……!

シッ
ロ

クァ

ククッ
精液の
催淫効果で
発情したか

あぁっ身体が熱くてっ……
指も止まらないっ……!

クァ クァ



はああつあ
あああつあ



……あたし
どうかしてた…
精液を飲んで
あそこを
弄って……



でも……
町の人達は
みんな普通
だった
リサやママも
いつも通り
だし
きつと
一度に操れる
人数や距離に
限界があるんだ

今日は
ハンバーグ
よ

やった
ー!!



だから
きつと
どこかに
チャンスが
あるはず……!

食べる前に
ソースを
かけない
とね



……え

ドクドク
ドクドク
ドクドク
ドクドク
ドロオオオオ



あぁっ♡
触手チ○ポ
気持ちいい♡

昨日
ダーゲル様に
付けて
もらった
の♡

……こ
はこれ

う……嘘……
そんな
リサとママ
まで……



あああああっ!!
やっぽり美味し
いいいいっ!!

んんん
っっっ!!



ママが
食べさせて
あげるわ♡

イヤ

ほら
あーん
して♡



そんなに
チ○ポが
欲しい
のね♡

えっ?



あぁっ精液
美味しいっ!!

美味しくてっ!!
身体が熱い
いいいいっ!!

それに凄く
発情してる♡

うふふ♡
こんなに精液に
夢中になって♡



んうはああつ!!
ふぐうあつ!!

ふつ二人の
物があつ!!
おっお尻の
穴の中にも
おっ...!!

ポッポッ
オオオオ

ポッポッ

ああつ♡
お姉ちゃんの
ア〇ルの中あつ
温かいよおつ♡

んおあつ♡
ユウのオマ〇コ
気持ちいい
わああつ♡

ポッポッ



お姉ちゃん
とても気持ち
よさそう♡



可愛いわ
ユウ♡



ああつアソコもお尻も
なんでこんなになっ...!!



こんな気持ちいい
のおおっ!!



お姉ちゃん♡
私ともうっ...♡



母娘
みんな
一緒にい
っ...♡



ほら♡
精液
だよ♡

...ああ...
...精液...
ペロ

ジェル



んああはあつ
はあああつ!!

はあああつ
あああつ♡

...精液...

...おい...
...しい...



—あたしは
シャインハーツ
……

みんなを
ダーゲルから
助けなければ
いけない……

だから
このままじゃ
駄目……



駄目なの
に……



助ける方法が
一つある

それは
この二人を
雌奴隷に
戻す事だ

射精させれば
再び雌奴隷に
堕とせる
二人には
言うなよ

どうする
ユウよ?



お姉ちゃん
助けてっ!

わ 私達を
開放して
ください!

二人の意識を
正気に戻した

だがじきに
触手達に
食われる

やめてっ!
二人を
助けて!





あああああああつっ!!
 はあああああつっ!!



ああっ♡
 ユウっ私っ
 もうっ…♡



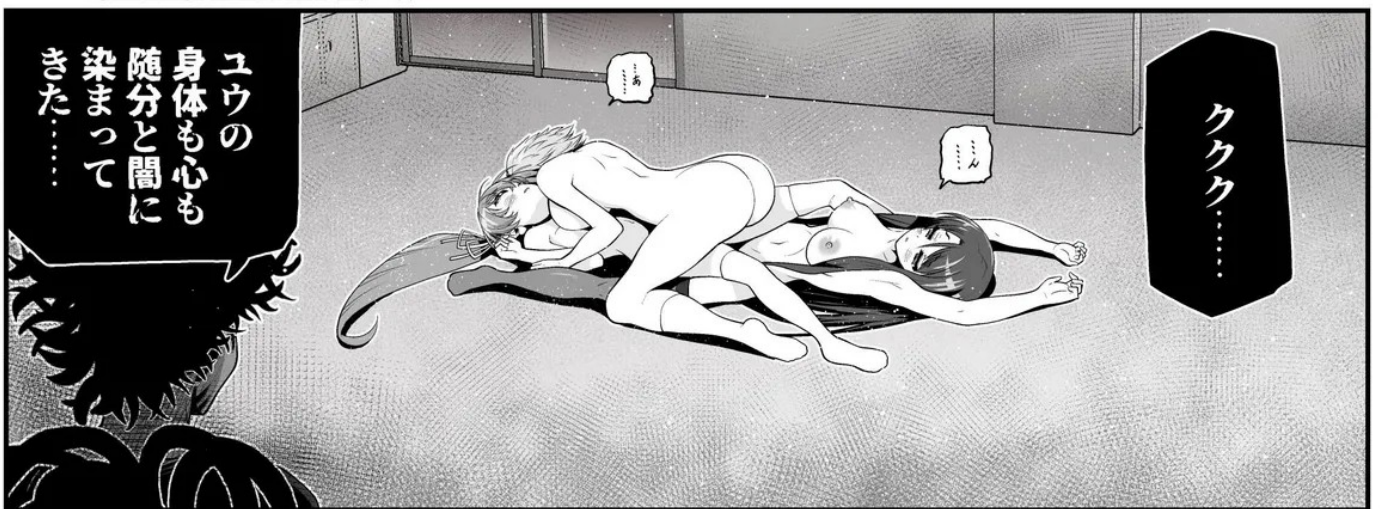
はああっ♡
 ボクもっ
 もう出ちや
 ううっ♡



いっぱい
 出してえっ!



私の中
 にいっ!!



ククク…

ユウの
 身体も心も
 随分と間に
 染まって
 きた…



うぐああああ
 あああつっ!!!



完全に
 墮ちるのも
 時間の問題
 だろう…





そうだわ……
私は脳を支配
されて……!!

ずっと
操られて
いたんだ
……!!

これで二人は
元に戻った!!



ユウが元に戻して
くれたのね……!!



ありがとう……
ユウ……!!



うん……
本当に戻って
良かった……!!



ダーゲルが
支配した人間を
傷つけるには
相手の近くにいる
必要がある……

だから
ここで三人で
ダーゲルを
倒す事が
できれば……!!



アサヒ……
エリナ……



お前達は
何者だ?

アサヒは
ご主人様の
忠実な
雌牛奴隷
です♥

エリナは
永遠に
ご主人様の
雌豚奴隷
です♥



え？



元に
戻してくれて
ありがとう
ユウ♥

やっと
正気の状態で
ご主人様に
忠誠を誓えたよ♥

……え……
エリナ……？

……アサヒ
……？



……私は
気付いた
の……♡

ご主人様の
雌奴隷こそ
私の目指す
完璧な女だと……♡

ボクが
なりたかったのは
王子ではなく
雌奴隷の女の子
だったんだ……♡

——合宿の日以来……
私達は雌奴隷の
快楽と悦びを忘れ
られずにいたの

だから……
ご主人様が復活して
目の前に現れた時
本当はこう思ってた……

『ご主人様が
戻ってきて
くれた』
と……♡

よく言っ
た……

んおおっ♡
おおおっ♡

お前達を
元の姿に
戻して
やるう

おおおっ♡
ほおおっ♡

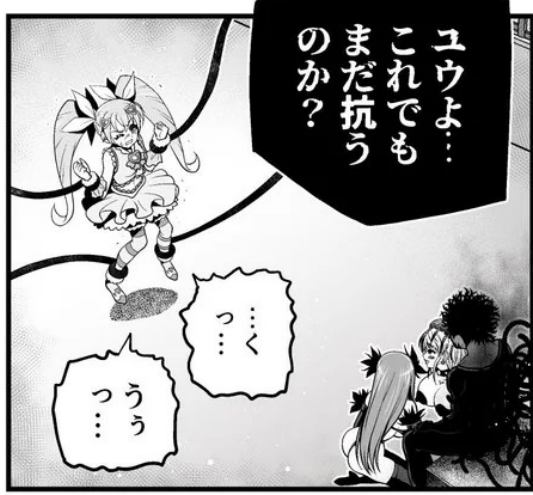


本当の自分の姿に戻れた...

ああ... やつと雌奴隷の姿に...



嘘...



ユウよ... これでもまだ抗うのか?



あああ あっ!

ツルルルッ

グツルルルッ

ツルルルッ



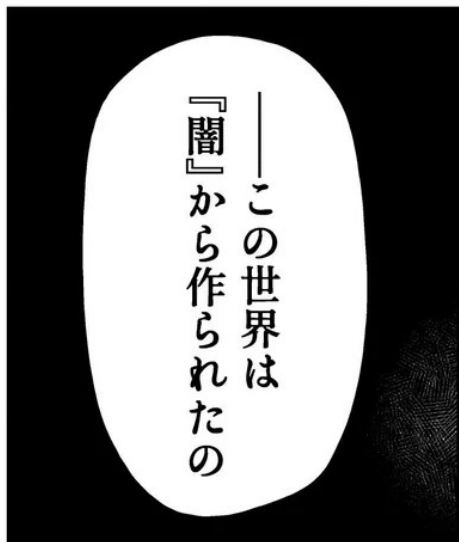
わ... 私は必ずみんなの闇を払って世界の平和を守る...!

それがシャインハーツの使命なんだから!!



え…？

その『使命』が
そもそも間違い
だったんだよ
ユウ♡



——この世界は
『闇』から作られたの



ユウにも
教えてあげるよ

ご主人様は
世界の闇の中を
漂っていた時
『世界の真実』を
理解したの

でも近年
パワーの
供給が減り
世界が維持
できなく
なってきた

世界の維持には
欲望から生まれる
闇のパワーが必要で
特に堕ちた女の心から
多く得られるわ

だから『世界』は
パワーを得る為
『闇の魔物』を作り
女を凌辱し堕落させる
ようになったの



でもまだ魔物の
闇の力が弱くて
パワーの供給が
足りなかった

そこで
『世界』が
作ったのが

『シャインハーツ』
なの

シャイン
ハーツ…!?



光と闇は互いに力を
高め合う存在なの



シャインハーツの
光の力が闇の力に
呼応して高まるように

闇の魔物はシャインハーツの
強い光で倒されるたびに
より強い闇の力で蘇るのよ

その中で作られたのが
魔物を操り闇を吸収する能力と
知能を持つ人型の闇の魔物

…つまり
ご主人様
だったの♡



その後『世界』の目論見通り
私達とご主人様は戦いの中で
互いの光と闇の力を高め合い



そして最後に
ユウの強大な光によって
ご主人様に最強の
闇の力を与えたの♡

じゃあ… あたし達が
じゃあ… これまで
… 戦ってきた
… のは…



そう…

最終的に
世界を闇で満たす
為だったの♡





…今
ユウの
心を

絶望の闇が
満たして
いるのが
分かる……



シャインハーツは
ご主人様の闇に
支配していただく為
に存在していただ
んだよ♡

…そ
…そ
…んな

…あ
…あ
…



つまり

今の無防備な
ユウであれば
……！



ガッ口口口

あ
があ
ああ
あつ
!!

あつ
頭の中

がああつ

弄られてつ

あつあああ

ああつ!!

ガッ口口口

あああつ!!

…陽ノ下
ユウ……

…あたし
は……

……
そうだ……

…あたし
は……？

…あれ
……？

……

……

生まれたばかりの赤ん坊：

ほら
ユウちゃん♡
ママのオツパイ
でちゅよー♡



ああ……
ママのオツパイ
しゅごく
おいしい……

んああ♡
たくさん飲んで
大きくなってね♡

ほらユウ
ちゃん♡

今度は
パパがミルクを
くれるわよ♡



んちゅ
うう

んぐ
ご

あああつ……
パパのチ○ポっ
おいしいっ！

ずじゅる
るるっ

ちゅぽ
ちゅぽ

もっと
ペロペロ
するうっ！





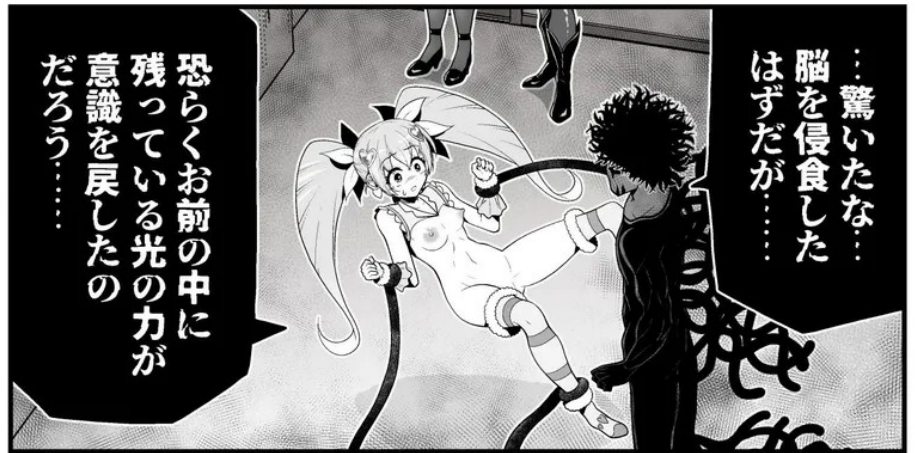
えっ!?!
なんであたし
こんな事…!?



何!?!



……い……
意識が
戻って
……
良かった……



恐らくお前の中に
残っている光の力が
意識を戻したの
だろう……

……驚いたな……
脳を侵食した
はずだが……



再び脳を
弄れば
いいだけだ

まっ
また意識
が……

んおっ
おおっ



……良かった……
はずなのに……

……何……
この気持ち
は……??

クク……
まあいい

あ……
あ……
は……
あたし

あ……
あ……

あたしは
ペットの
雌犬ユウ

今日も
飼い主様と
一緒に
お散歩♪



くう
くう
くう
くう

イツ
ちやい
そう〜!

ああっ
おしっこ
気持ち
いい〜♪



餌の時間♪

精液かかって
美味しそう!



うわお
おあん!!!

飼い主様との
交尾気持ち
いいっ!!

ズボッ

グギャッ

もっと雌犬の
オマ○コ
後ろからズボズボ
突いてえっ!!



ああっとっても
美味しいっ!

ブルルッ

バクバクッ

オマ○コが
熱くなってっ
発情してきた
のおっ...!



ああっ
幸せっ!!

おうわ
おんわ

おわお
おんわ

散歩もっ!
餌の時間もっ!
交尾もっ!

気持ちよくてっ
幸せなのおっ!!



またか
……

……あ……
あたし……
また意識を
侵食されて……

……でも……
光の力で
元に戻った……
……戻った
のに……



さ……さっきまでの
雌犬の幸せな
気持ちが消えて……
こ……心が……
淋しくなってる……

ち……チ○ポを
入れられてるのに……
身体も……
満たされない……



何度でも
侵食して
やるぞ

やっ
やめて
……!

もう……
これ
以上は
……!

——何度も
繰り返される
侵食の中で…

なんで
絶頂の直前に
意識が
戻されるのか
分かった…

きつと……
侵食されてる時に
幸せに絶頂
してしまうと

あたしの心が
完全に闇に落ちて
しまうから……

だから
あたしの中に
残った光の力が
拒否反応を
起こして

自動的に意識を
戻してしまう
んだ……

だから……
どんなに気持ち
よくても……

どんなに
幸せでも……
元に戻されて
しまう……

……
戻され
て……

しま……
う……
ん……

……
だ……

——あたしは
『触手チ○ポ』

女の子達の
オマ○コと
繋がって
ズボズボ
グチュグチュ
するの♪



あたしの夢は
みんなと
『仲良し』に
なる事♪

大切な人達と
いつまでもずっと
笑い合って楽しく
生きていくのが
あたしの目標♪

女の子じゃ
なくても

人間じゃ
なくても



世界中の
みんなと

仲良く
できればって
思ってるの♪

あぁっ……

繋がるの
気持ちいいっ
……

みんなと
仲良くするの

幸せ……







ここへは
二度と
来るな

帰れ



……あたし……
これ……から……は……
……
ずっと



……もう……二度と……
……ここには……
来れ……ない……

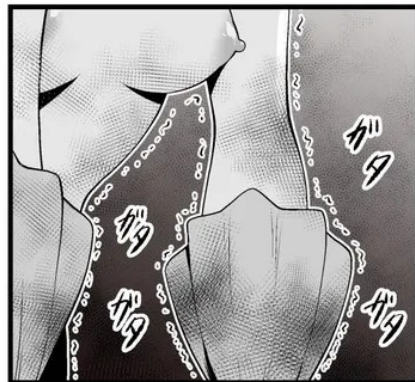
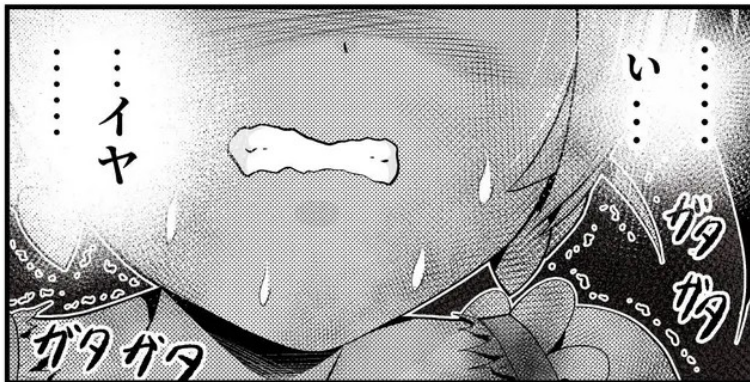
……触手に……
……侵食……して……
……もらえ……ない……

……みんなと……
……もう……
……会え……ない……



……え……？
……あ……あたし……
……開放……され……
……帰され……
……て……

独り





……お前は
シャインハーツ
だろう？

世界の平和を
目指している
のだろうか？

……でも

……いい

なんだ？
ハツキリと
言え



あ……
……あたし……
も……

……み……
……みんな
と……

……い……
……一緒……
に……

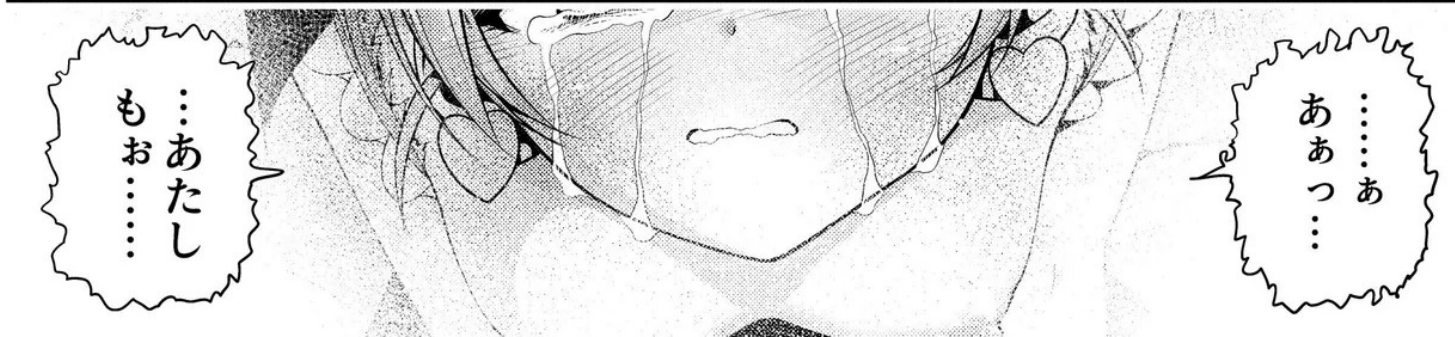
……しよ……
……触手で……

……して



世界の平和
なんて……

もうどうでも
いい……!!



……あ
ああつ……

……あたし
もお……



…あたしもお…
…みんなと一緒にい…
…脳をクチュクチュして
くらはいいいいっ…

…お…お願いしますう…
…ダーゲルしまあ…!!



この時が来た
のだな…

…
…
…



正義の光が
完全に闇に
染まる時
が…!!



脳があつ…!
心があつ…!
全でが
闇に侵食
されるうっ…!



あつあだし…
この闇に
飲み込まれたら…
もう…
もう二度と
元には…
戻れない…



…あぁ…
…違う…

…二度と
戻らなくて
良いんだ…



…これからは
ずっと…

ああ
これからは
ずっと皆と
一緒だ…

俺の
雌奴隷と
してな!

グズグズグズグズ

オンオオオオオオオ
おおおおツツ!!



しゅごいいいっ!!
脳を侵食されながらっ!!
太い触手チ○ポで
オマ○コ突かれてえっ!!
頭がおかしくなるううっ!!

触手
チ○ポは
気持ち
いいか?

グズグズ

グズグズグズグズ

オンお
ツオお
!!おオ
気持ぢい
触手チ○ポ
!!
気持ぢい
れずウウっ
!!



ククッ
獣のような
声を出すな
お前には
雌犬奴隷
という名が
相応しい

グズグズ

めっ……
雌犬っ……
奴隷いつ……!

ユウよ

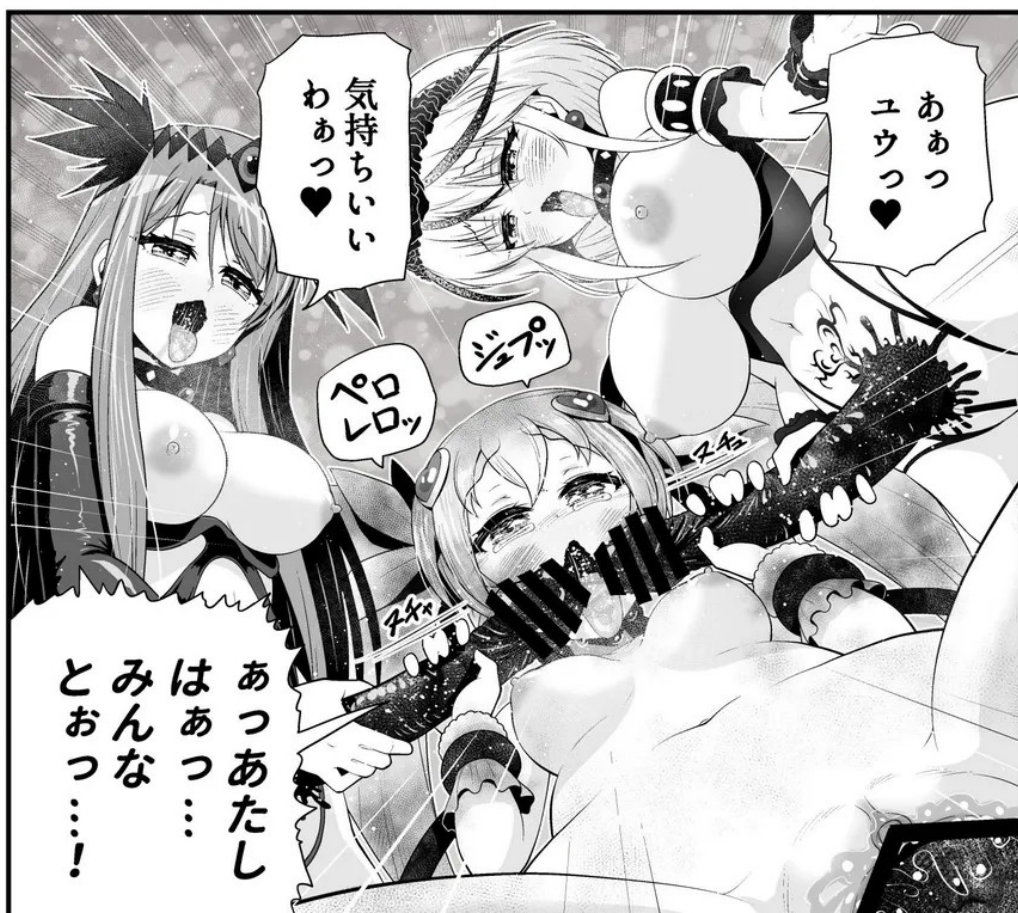
もうお前は
理解している
のだから?



自分が
何を望んで
いるのか

ああっあたし
はあっ……





ンオオおツ!!
あたしはあつ!
みんなと一緒に
にいっ!!

グチュ

グチュ

身体も脳も
侵食されたい
れすううっ!!



オオオおおツ!!
みんなと一緒に
触手チ○ポ様
にいっ!!

グチュグチュ
犯されたいれす
ううううっ!!



そして
っ...!



ああっ
...

そして
っ...!



みんなと
一緒にいっ
っ...!



ご主人様
のおっ♡

雌犬奴隷に
なりたいいれす
うううっ♡♡

ボロボロ
ボロボロ



よく言った
雌犬奴隷ユウ

…あたし…
やつと
分かった
…♡

身体も…心も…
闇に染まると…♡

こんなにも
気持ちよくて
こんなにも
幸せなんだ…♡

ボロボロ
ボロボロ



あああつ♡
ご主人様の
オチ○ポ様
美味しいっ♡

ボロボロ
ボロボロ



エリナ達の
言った通り
だった…♡

光は…
闇に染まる
ために存在
してた…♡

ボロボロ
ボロボロ
ボロボロ



あたし達
シャインハーツ
は……♡

ご主人様の
雌奴隷になるために
存在してたんだ……♡



出ひてくら
はいっ♡

ンオオ
オおっ♡

お前の子宮を
完全な間に
染めてやるわ



完全な間に
染めてくら
はいっ♡

雌犬奴隷の
ユウをっ♡



ンオおおおアああ
 あアツつ♡♡♡
 ン



あああ
 あっ…♡
 あたし
 つ…♡

…♡
 やつと
 …♡



…ああああ
 あああっ…♡

ご主人様と
 みんなの
 精液がっ
 …♡

あたしの全てを
 満たしてっ…♡



ダークハーツ
ユウよ……

はい
…♡

あたしは
ご主人様の
雌犬奴隷…♡

ダークハーツ
ユウは

ご主人様に
永遠の忠誠を
誓います…♡

…あたしは
これで
やっとな……

みんなと
雌な奴か隷よに
なれたん
だ……
♡

==== 最終章 ====
{ ダークハーツ }





——
私の名は
ツルギ

今回は 闇の魔物
『ダーゲル』に
支配されたという
この街に伺い

道中で助けた
少女
陽ノ下ユウに
案内され

これまで
シャインハーツ
として
闇の魔物達を
倒してきた

ダーゲルの
住処にたどり
着いた

街のみんな……！
私が必ず
ダーゲルを倒して
平和を取り戻し

この世界の闇を
全て消し去って
みせるから！



私の名は
ツルギ♥

ご主人様との
ダーゲル様との
戦いに完敗し
触手様に身体と
脳を支配して
いただきました♥



今では
雌奴隷として
忠誠を誓い♥

こうして毎日
身も心も凌辱して
いただきます♥



私以外にも
雌奴隷に生まれ変わった
シャインハーツは
たくさんいました♡

強い光の力を持つ
シャインハーツを
墮落させる事で
強大な闇の力を
生み出せるのです♡



この先も
シャインハーツ達を
雌奴隷に墮として♡

この世界が闇に
染まる事をつ♡
おっ♡願つてつ♡
んおっ♡おっ♡

おほおお
おおっ♡♡

おほっ♡おほ
おっ♡ほおお
おっ♡♡



光の心を持つ女が
雌奴隷に墮ちる姿は
何度見ても
良いものだ

なあ…



これでまた
闇が広がる…

ククク

ダークハーツ
雌奴隷
達よ

はい♡
ご主人様♡

雌奴隷に
なれて
あたし達は
幸せです♡

この
雌奴隷達に
なんなりと
ご命令
下さい♡



ククッ
それなら

んはああつ
ああつ♡♡



お前らの身体
全てを使って
俺の触手チ○ポに
奉仕しろ

オゴッルルルッ
ジッポッ

雌奴隷の
全ての穴を
お使い下さい
いっ♡

はいっ♡
触手チ○ポ様
にいっ♡
ご奉仕させて
いただき
ましゅうっ♡

オマ○コ♡
ケツマ○コ♡
口マ○コで
いっぱい
気持ひ良く
しまふうっ♡

——あたし
今とても
幸せ…♡

大切な
みんなと
仲良く♡

ご主人様に
ご奉仕して♡

触手チ○ポ様に
犯してもらって♡
脳をクチュクチュ
弄ってもらって♡

みんなとても
笑顔で幸せ
そうで…♡



ガビュルル

ククク……
そしてその光を
遙かに凌駕する
闇の力で復活し

これまで以上に
世界を闇に
染めるのが
今から楽しみだ

ズボムルル



……きつと
いつか

俺を倒す
シヤインハーツが
現れ世界に光が
戻るだろう



なあ
雌奴隷
達よ

あはああっ♡
とてもっ楽しみ
れすうっ♡

もっと
闇に堕ちた
雌奴隷達とっ♡
仲良しになりたい
のおっ♡

世界全てがっ♡
ご主人様の闇に
支配されるのが
待ち遠しいれすっ♡



いっぱい
膣内に出して
くらはい
いっ♡

ご主人様
ああっ♡



ご主人様の
雌奴隷となる
娘をっ♡

孕ませて
欲しい
れすっ♡



ククッ
お前達に
娘を生ませ
雌奴隷を
増やすのも
いいかもな

ああっ♡
妊娠させて
くらさい
ご主人様あ
あっ♡

ああああ
あつああ
つ♥♥

はああつ
ああああ
つ♥♥♥



—いつか
夢見た世界が
ここにある
……♥

みんな仲良く
笑い合う
夢のような
世界……♥



この世界が：
永遠に続けば
いいな……
♥



《魔法少女シャインハーツ》

～*fin*～

～～あ と が き～～

どうも、サークル『エクリプス』のコーアンです。

この度は『魔法少女シャインハーツ第三章 ～陽ノ下ユウ～』
をお買い上げいただきありがとうございます。

第一章を販売開始してからもう1年以上経過し、
今回でようやく完結させる事ができました。
お待たせしてしまい申し訳ありません。
制作速度を上げる事はこれから先も大きな課題ですね。

シャインハーツシリーズは初めてのオリジナル作品でありましたが、
今までで一番販売数が多くて反響も大きい作品となり、
私に作家としての自信をつけてくれた作品となりました。
これも、これまで応援して購入していただいた方々のおかげです。
改めてありがとうございました。

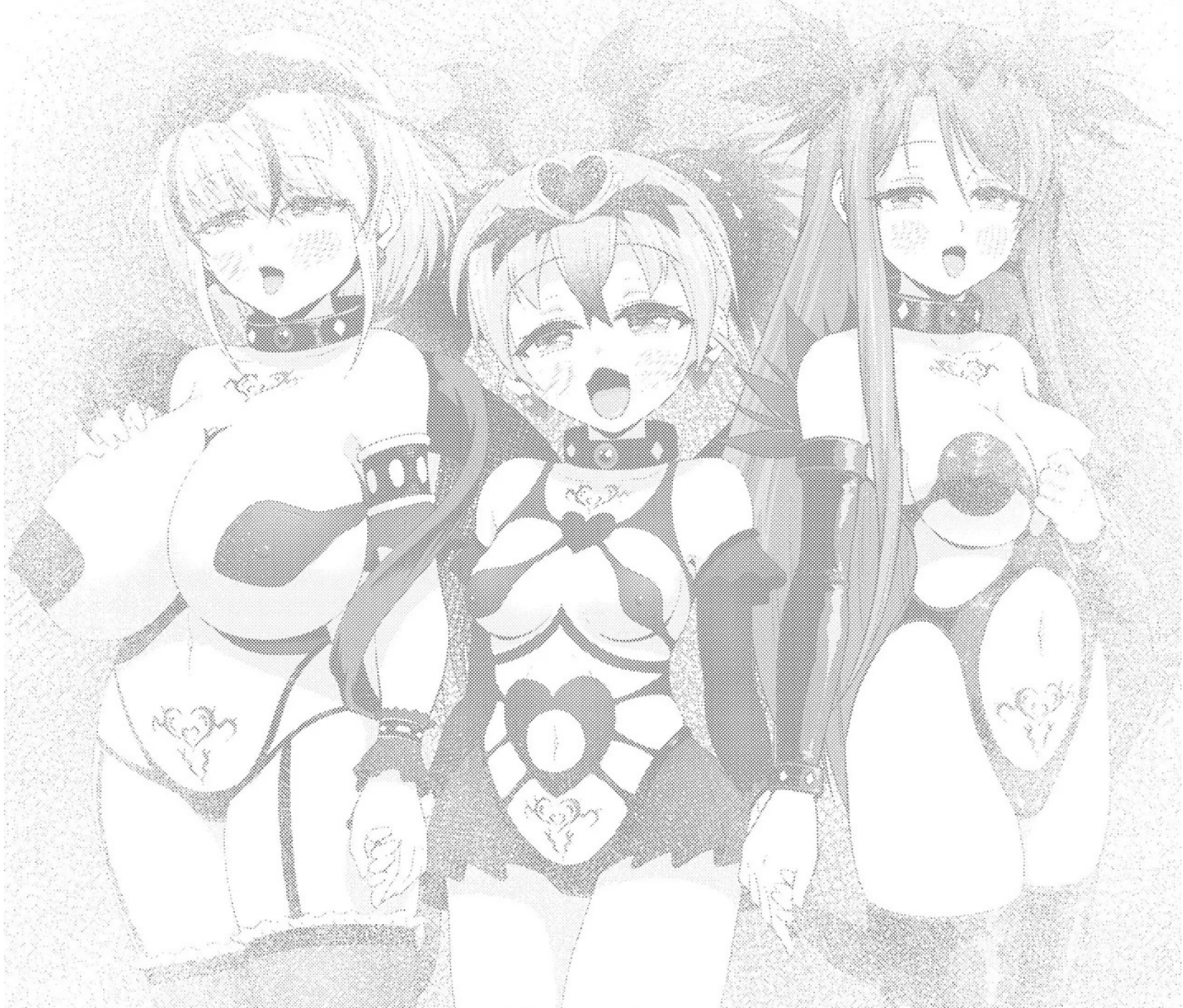
内容に関して振り返りますと、
ストーリーに関しては、それなりのボリューム感を出しつつ
魔法少女達を良い感じで随とす事ができたかなと思っています。
ただ、エロシーンの描写や絵のバランスなど色々と反省点はありますので
次回はその辺りを改善しつつ制作していこうと思います。

次回作の情報はまたCi-enの記事などで投稿していくつもりです。

それでは今後もよろしくお願ひします。

2026年1月16日 コーアン

ご購入
ありがとうございました



Ci-en.....<https://ci-en.dlsite.com/creator/7151>

HP.....<https://www.eclipse66.com/>

pixiv.....<https://www.pixiv.net/users/56162663>

ニジエ.....<https://nijie.info/members.php?id=158345>

連絡先: isyuuki@icloud.com